

MSN-06S

SINANJU

シナンジュ

ネオ・ジオン残党軍「袖付き」の首魁フル・フロンタルの専用MSとなった高性能機。サイコフレームの限界性能とデータ収集を目的にAE社が試作したシナンジュ・スタインを強奪した「袖付き」が各種改修を施すことで実戦機体に完成させたとの特異な経歴を有する機体である。性能面でも同時代のMSを遥かに凌駕しており、残光を残しながら戦場を駆け抜ける姿は「袖付き」に参加した兵士たちの士気を高揚させると同時に、地球連邦軍兵士の恐怖をおおったとされる。



| | |
|-----------|--------------|
| 機 高 | 22.6m |
| 本 体 重 量 | 25.2t |
| 全 機 重 量 | 56.9t |
| 装 甲 打 算 | ガンダリウム合金 |
| ジェネレータ出力 | 3,240kW |
| スラスター 総推力 | 128,600kg |
| センサー 最大半径 | 23,600m |
| ア rms | 60mmバルカン砲×2 |
| | ビームライフル×1 |
| | ビームサーベル×2 |
| | ビーム・ダクス×2 |
| | ビーム・ナギナタ×2 |
| | グレネードランチャー×1 |
| | ロケットバズーカ×1 |
| | シールド |
| | フル・フロンタル |

GUNDAM MS Bible 28

CONTENTS

- | | | | |
|---------------------------------------|----------------|---|----------------|
| ■ 戦場レポート 激震! シャアの再来 | 01 | ■ MS戦記 シナンジュ 戦時の記録 | 16 |
| ■ MS機体解析 機体解説 機体バリエーション 武装解説 | 05 08 10 | ■ MS進化論 シナンジュ 開発系譜図 | 18 |
| ■ 関連MSラインナップ シナンジュと関連機体 | 12 | ■ メカニック・ジャーナル アームドベース 推進システム 資源衛星パラオ | 22 26 30 |
| ■ MSパイロット フル・フロンタルと周辺人物 | 14 | ■ ガンブラ ジェネレーション 猛禽類を模したシルエットを実案に再現! | 34 |







『機動戦士ガンダムUC』episode 2「赤い彗星」より

激震! シャアの再来



運用MS ネオ・ジオン残党軍「袖付き」

ガンシールド隊を〈インダストリアルア〉に誘導し、ビスト財団から「第」の譲受を目論んだのだが失敗。「第」の位置を記録されたユニコーンガンダムがネエル・アーガマに回収されたと知り、その逆襲を開始した。

REWLOOLA
レウルーラ



AMS-129

GEARA ZULU (ANGELO SAUPER USE)

ギラズール(アンジェロ・ザウパー専用機)



AMS-129

GEARA ZULU (GUARDS TYPE)

ギラズール(護衛機)



MSN-065 SINANJU

シナンジュ

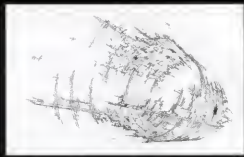
フル・フロンタルの専用機。常人では操作できないほどの反作用を運動性を発揮。パイロットとともに「赤い彗星の再来」と呼ばれる。



『ラプラスの箱』の譲受に失敗したばかりか、ザビ家の遺児ミネバとはぐれてしまったガンダム隊。そのミネバは、ユニコーンガンダムとともに地球連邦軍強襲揚陸艦ネル・アーガマに保護されていた。報告を受けたネオ・ジオン残党軍「袖付き」の首魁フル・フロントルは、自らシナンジュで出撃。スペースコロニーの残骸に身を隠すネル・アーガマを強襲し、『箱』に関する情報の引き渡しを要求した。ミネバを人質に撤退を求めるネル・アーガマの交渉もフロントルの同意を得ることはできず、攻撃開始までの期限が迫りつつある中、ついにユニコーンガンダムがその姿を現したのだった。

戦闘宙域

〈インダストリアル7〉から脱出したネル・アーガマが向かったのはコロニーの残骸が浮かぶ戦域宙域。無数のデブリがレーダーを欺瞞し、「袖付き」の追撃をやり過ごせると期待したのだ。さらに残骸は艦MS部隊の進行を阻む障害となり、守るに易く攻めるに難しいと判断が働いたこともある。しかしフロントルの頼るシナンジュは通常のMSの3倍の速度でこの宙域を突破。ネル・アーガマに攻撃を仕掛けた。



■ネル・アーガマが通過したスペースコロニーの残骸



RX-0

UNICORN GUNDAM (DESTROY MODE)

ユニコーンガンダム(デストロイモード)

箱の位置を示すラプラス・プログラムを搭載したMS。ニュータイプや進化人間の存在を察知して「変身」する。



RGZ-95C
ReZEL (Commander Type)
リゼル(艦長機)



WR形態



RGZ-95 ReZEL
リゼル



WR形態



RGM-89D
JEGAN D-TYPE
ジェガンD型



NAHEL ARGAMA
ネル・アーガマ

運用MS 地球連邦軍／ネル・アーガマ

地球連邦宇宙軍外務新鋭部隊 Rond・ベルに所属する部隊。ネル・アーガマはかつて正規の国防計画を遂行せずに奪取されたため、取り回しの悪さから単艦運用(特殊作戦運用)が基本であり、〈インダストリアル7〉に派遣された。

HISTORY TIMELINE

——物語の展開——

■囚われたユニコーンガンダム

ユニコーンガンダムのパイロットに登録されたバナージ・リンクスは、ミネバを政治的に利用するフロントルやネル・アーガマに反発。ユニコーンガンダムで活躍を見出そうとする。しかし深追いしたところをクシャトリヤに襲撃され、「袖付き」の活動拠点・資源衛星〈パラオ〉に囚われてしまった。「箱」の秘密が「袖付き」に渡ることを危惧したネル・アーガマは(パラオ)攻撃を企図するのだが……。

クシャトリヤに奪取されたユニコーンガンダム。コクビト周囲の一帯でバナージは奮戦。



一方、ネル・アーガマの艦隊を予測したフロントルは、この事態を利用してユニコーンガンダムのラプラス・プログラムを封印解除を画策する。

ユニコーンガンダム乗組のため、ネル・アーガマは連邦軍特殊作戦部隊エコーズ929と共闘。(パラオ)にエコーズの工作部隊を派遣している。



MS 機体解析



MSN-06S SINANJU

シナンジュ

「袖付き」によって 新たな姿を与えられた 「赤い彗星の再来」の乗機

MSN-06S シナンジュは、ネオ・ジオン残党軍「袖付き」のフラッグシップ機として運用された試作MSである。地球連邦軍の「UC計画」の一環で開発されたサイコフレームの実験機、MSN-06S シナンジュ・スタインを原型とし、高い機体追従性と機動性を特徴としている。「袖付き」の首魁フル・フロンタルの専用機となった本機は、その性能をもって「赤い彗星の再来」の存在を世に知しめたのである。

シナンジュの原型機にあたるシナンジュ・スタインはAE(アナハイム・エレクトロニクス)社が開発し、U.C.0094に起こった強奪事件で「袖付き」の手に渡った(偽装譲渡だったとも言われる)。その後、改装を受けてこの姿となった本機は、U.C.0096の「ラプラス事変」において「袖付き」の象徴として他を圧倒する性能を発揮することとなった。



赤く塗装されたシナンジュはフロンタルの乗機として登場を屈指し、「シャア・アズナブルの再来」を強く印象付けた。



「ラプラスの箱」を巡る争いのなか、星の「墓」となるユニコーンガンダムと衝突し、互く牙を交えることになる。

機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m



MSN-06S
SINANJU
22.6m



AMS-129
GEARA ZULU
20.0m

原型機は連邦系MSの画一的な外形を有していたが、ジオン系MS特有の曲線的な外形に更新されている。また、23m近い大型機でありながらもそのフォルムはスマートで、サイコミュ制御の小型化が顕著していたとする説もある。



同スケール
パイロットとの対比。

MSN-06S
SINANJU
Front view

サイコフレームの実験機としての特性を 先鋭化させた「人ならざる者」のためのMS

シナンジュの原型となったシナンジュ・スタインは、サイコフレームの強度と追従性を検証するためのテスト機で、パイロットは搭乗せず機械的に限界性能を計測する試験を想定していた。本機はその特性をそのままに機体構造に改良を加えることで、サイコフレーム搭載機の優れた機体追従性をパイロットの機動イメージと結びつけ、高次元の機動性を実現している。ただし、その性能は常人に扱えるレベルではなく、フル・フロンタルの並外れた技量と組み合わせることで初めて発揮されるものだったと言える。

■頭部

頭部の基本構造は原型機から大きく変わっていないが、モノアイの採用やブレード・アンテナの追加、フェイス部分などの装甲形状の変更によって外観の印象がやや異なる。また、モノアイスリットの内側にはモノアイとは別の走査端末を備えていたと見られる。

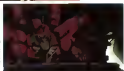


頭部のパーツや全体の形状など原型機との共通点は多いが、印象はジオン系のもので変わっている。



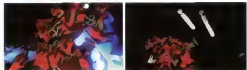
ジオン系機体である角張り（ブレード・アンテナ）を備えるシナンジュの顔ユニット。

改良したフェイスガードの裏に、モノアイとは異なるセンサーの赤い発光が確認できる。



■胴体

胴体は胸部構造の変更や腰部スラスターユニットの追加などが行われている。また、コクピットは胴体中央に位置し、操縦系にはパイロットの操縦イメージを機体の挙動に反映する「インテンション・オートマッチングシステム」が搭載されている。



胴体の基本構造は原型機と大きく変わらない。胸部には2基のプロペラントタンクを備え、圧縮に切り替えてダミーのように用いるケースもあった。

胸部装甲構造

コクピットハッチとなる機体前部装甲は、3つのユニットで構成される。特にエンブレングが施された上部装甲の形状は原型機とは大きく異なる。



上は機体前部ユニット上半身の構造で、動力パイプが露出されている。右はコクピットハッチの内部構造。



コクピットの内部構造は地味な機体用MSのものと同じであり、一層に深層が掘り込まれている。

いかにして機体を操縦しようとするシナンジュ。圧倒的な機動性は常人では操縦できないほどだが、フル・フロンタルの手にかかると「赤い顔の再来」の名に相応しい動きを示した。





MSN-065
SINANJU
REAR VIEW

■フレキシブル・スラスター

メナンジュの高機動を支える機構が「フレキシブル・スラスター」と呼ばれる可動式の大推力推進器である。背部と脚部に配されたこのユニットは、インテリジェント・オートマッチングシステムが捉えたパイロットの機動イメージを実際の機動として再現する機能を有する。また、その動きと連動するスラスター群を機体各部に備え、原型機の開発段階で想定されていた「超高機動モード」への移行を早期に実現していたと言われる。



背部のフレキシブル・スラスターは本脚を駆動する機構であり、優れた機動性の源となった。

フレキシブル・スラスターの加減力と可動範囲によって、自由自在の機動を実現している。



フレキシブル・スラスター展開状態



上は背部と脚部のフレキシブル・スラスターを展開した状態。脚部はメスルを前方に向けることも可能である。



背部フレキシブル・スラスターは、通常は上下の脚甲が挟んだ状態（左）だが、展開時には脚甲が上下に開いて2基の推進器が後方にせり出す。

■胴部

胴部は外装の変更により、メオン系MSらしい外観を有する。また、胴部側面にはスラスターユニット（アクティブ・シールド・スラスター）ともいえる追加された機動性が追加されている。なお、前胴部などのエンクレピック部分にはガンナリウム系の新合金が用いられ、装甲が強化されていたとする説もある。



自衛に向けて突き出されたD-SOC（ドクトのヒム）・パーチャーで胴部。そのままに折れる胴部も動作も見られた。



■脚部

脚部は胴部側面に備えるフレキシブル・スラスターが特徴で、推進器として重要な役割を果たす。また、小指石を蹴って跳躍するといった柔軟な挙動も可能としていた。



RX-0 ユニコーンガンダムを脚部はシナンジュ。脚部は脚部性を誇うだけでなく、攻撃手段としても用いられた。

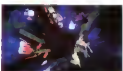


脚部フレキシブル・スラスターは、通常は脚部側面に配置して外面の一部を形成する。

上は足部と胴部の構造。脚部とはやや形状が異なるが、シナンジュの脚部は機動性が高い。

■シナンジュの由来と運用

袖付き による強襲事件に遭った地球連邦宇宙軍所属のクラブ級遠征機ウナカイは複数の試作MSを操縦しており「スライム01」の開発コードを持つ機体がメナンジュの原型になったとされる「ラプラス事業」では宇宙での主要な作戦を率い、ラプラスの戦い、新機軸の矢面に立った。



ユニコーンガンダムに展開された「NT-DI」の機動性とも異なり、脚部と互角の性能を示した。

脚部ケースは開いたが、ユニコーンガンダムに展開される機動もあつた。



脚部側面には胴部でセナラル・レベイルとそのMS脚部を駆動し、脚部を握る機動と日動能力を示している。



旧機脚部（ラプラス）の状態で脚部、多兵用ドクトランチャーの脚部を交換した。



MS 機体解析 バリエーション



NZ-999 NEO ZEONG
ネオ・ジオング

人為的な「奇蹟」を 引き起こした NT専用機ハルユニット

シナンジュと全高100m超級のハル(外殻)ユニットがドッキングした拠点攻略用巨大MAが、NZ-999 ネオ・ジオングである。巨体に相応しい圧倒的攻防力を誇るが、その実質はシナンジュのサイコフレーム能力を最大限に引き出すためのサイコミュ増幅器だった。なかでもサイコシャード発生器は、疑似的なサイコフレームを増殖させ、サイコ・フィールドに類似した現象を人為的に引き起こすことができる。これはパイロットの思念を具現化可能なことを意味し、ユニコーンガンダムとの最終決戦においてフロンタルの手で実際に使用された。



サイコシャードを画用したネオ・ジオング。疑似的サイコ・フィールドにより、機体側の能力化、増強を遂げたジオングの性能を顕明した。



01-000
001 00000
0000 view

■もう1機のネオ・ジオング

「ラプラス事変」の翌年、フロンタル機とは別のネオ・ジオングである「Ⅱ(セカンダリ)ネオ・ジオング」が確認された。これはネオ・ジオング開発時の予備パーツを利用した機体であり、最終的にジオン共和国の手にわたっている。



後部にはフロンタル機と同様、脚部のコントロールを扱う背部的に大規模なアンネル・ビーム、大口部ハイドロポンプなどの特殊機能を持つ。

SPEC

脚部高:80.0m 全高:116.0m 本体重量: 全機重量

装甲材質: カンザリウム合金

シェネレーター出力:35,000KW〜計画不能

スラスター総推力:26,827,500kg 全機推力

武装: 肩付大型4方粒子砲 有線式大型フック(バネ) 腰部:

バネとレーザー 大口部ハイドロポンプ サイコ・フィールド発生器
(以下 シナンジュ用武装: バネ・ハイドロポンプ 大口部
ム・サーベル プール)

■機体比較



MSN-065
SINANJU
22.6m

NZ-999
NEO ZEONG
80.0m

NZ-999
NEO ZEONG
Front view

MS 機体解析 機体バリエーション



MSN-06S-2 SINANJU STEIN

シナンジュ・スタイン

ジオン共和国が保有し
袖付き 機に偽装された
もう1機の「シナンジュ」

U.C.0094.06.15の「シナンジュ強奪事件」の際、「袖付き」は2ユニットのシナンジュ(スタイン)を入手した。そのうち、フロントル機とならなかった機体がMSN-06S-2 シナンジュ・スタインである。この機体は「ラプラス事変」後、「袖付き」に偽装したジオン共和国軍のグループに配備され、U.C.0097のフェネクス捕獲作戦に投入されている。この際、本機のパイロットとなったのが、「シャアの再来」計画の失敗作とみなされた強化人間ゾルタン・アッカネン大尉であり、フェネクスだけでなくナラティブガンダムとも交戦に及んでいる。



袖付き 機に偽装したエングレーピングとプロペラントタンクの形状以外、外装はオリジナルと同様。旧ネオ・ジオングのコア・ユニットとしても運用されている。

MSN-06S-2
SINANJU STEIN
Rear view



袖付き で改造後のシナンジュ。機甲形状、塗装、武器などが変更され、ゾルタン機の性能も与えられた。

MORE INFO

シナンジュ・スタインの パイロットと運用

U.C.0097のフェネクス捕獲作戦に投入されたシナンジュ・スタインは、ゾルタン・アッカネンがパイロットを務めた。作戦の終盤、旧ネオ・ジオングのコアユニットとしても運用されたが、サイド6近隣のヘリウム3調査基地での戦闘で失われている。



失敗作であることにコンプレックスを抱き、ナラティブガンダムとの戦闘では激怒する場面も見られた。



先鋒の最終局面において、旧ネオ・ジオングを駆りナラティブガンダムやフェネクスとの戦闘に臨んだ。

パイロットのゾルタン・アッカネン 袖付きを脱いで、フェネクス捕獲に乗り出している。



SPEC

全高 22.6m 本体質量 23.1t
全備質量 34.2t 装甲材質 カンザリウム合金
ジェネレーター出力 3,240kW
スラスター総推力 126,600kg
駆動システム サーマル・ハイブリッド・ライフル 60mm
1/60カンザリウム・グレネード・ランチャー 1機1発

■機体比較

MSN-06S
SINANJU
22.6m

MSN-06S-2
SINANJU STEIN
22.6m



MS 機体解析 武装解説

『袖付き』が独自開発した専用装備によって 原型機のアンバランスさを払拭した兵装群

シナンジュの兵装は、原型機のシナンジュ・スタインのそれと構成を同じくしながらも、専用装備として独自に更新されたものとなっている。シナンジュ・スタインは最低限の武装しか持たず、テスト機ゆえのアンバランスさを抱えていた。それを実戦的な仕様に改めるため、『袖付き』は専用に関発した兵装群を本機に装備し、戦闘

能力の向上を図ったのである。ただし、本機はサイコフレーム搭載機でありながらビットやファンネルに代表されるオールレンジ兵器を採用せず、汎用MSの標準的なスタイルに倣っている。それでも、圧倒的な機動性とそれを駆使するフル・フロントルの技量を下地とし、本機は優れた戦闘力を発揮したのである。



機体上部のロングレンジセンサーはオプション装備で、これを用いることで遠距離探知が可能となる。



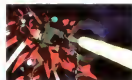
グレネードランチャー

シールドにマウント、またはビームライフルに接続する場合はロングレンジセンサーは外されたと思われる。



■ヒーム・ライフル

専用開発のヒーム系機体用兵装で、原型機の開発後に用意されたと思われる。特殊な機能はないが一般的なヒームライフルが標準出力で、上部に備えたロングレンジセンサーを用いて遠距離射撃を行える性能を有している。また、ハレル下部にはアトオン力のグレネードランチャーや後述のバズーカを装備でき、ヒームと実体弾の併用も可能だった。フロントルの精密射撃の技術によって、スペック以上の威力を示した。



ヒーム・ライフルは最終機のスマートな機体で高圧力を持つ。射撃時には機体背面にマウントされる。



機体のカバレッジを考慮するほどの威力を有し、スモールアームカミも大きな破壊力を与えた。

■バズーカ

ロケト・バズーカとも呼ばれる実体弾系機体用兵装。本機専用に関発された大型武器で、砲口付近にはMS-09トム系のインサート・バズーカを思わせるデザインが盛り込まれている。また、機体には伸縮機構が採用されており、その上部にはロングレンジセンサーを備える。機体を軸めた状態でヒーム・ライフルやメーラートにマウントでき、初速は低下するがマウントしたままでも発射は可能だった。



メーラート・レールを装備した際には、ヒーム機体機を制御した動機に対してバズーカを用いている。



ヒーム・ライフルにマウントした状態でも機体は伸縮することが可能で、取り回しは非常に機能的な低下は抑えられる。

■60mmバルカン砲

頭部ユニットには2基のバルカン砲を内蔵している。これはシナンジュ・スタインの構造をそのまま引き継いだものと見られ、地球連邦軍の標準的な同種兵器に共通する口径60mmとなっている。ただし、近接防御や牽制用途の戦術を踏まえる兵器ではなく、使用される局面もほとんど見られなかった。近接的な戦闘場面を誇るフロントルによって、こうした類の警告的兵器は必要性が低かったとも考えられよう。



頭部に搭載するグレーの円形部分からバルカン砲の砲口で、配管はシナンジュ・スタインから変わっていない。



頭部に搭載されたバルカン砲は、機体での運用供にも無難な近接運用系MSをベースとする設計を無難な。



近接戦闘用（サブス）の機能では頭部に収納されたが、バブルシールドに収納されたように見られる。



ビーム・アックス（上）はシールド上にマウントされるが、使用時には先端にあたる下側に移動する。



通常は近接のマニピュレーターで抽出されたビーム・サーベルを突き取るが、片腕の動作のみで可能とも可能だ。



シールドにビーム・サーベルをマウントする際、ビーム・アックスをロック機構として利用する。



ビーム・アックス

グレナードランチャー

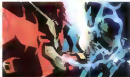
■ビーム・サーベル

近接戦闘用兵器として2基のビーム・サーベルを装備し、使用時には両腕関節の装甲内側（ビーム・サーベル・クワ）とも）に収納されている マニピュレーターで保持する一般的な使用用途のほか、サブハイスをラックに収め、またビーム刀を形成することも可能で 固定性・操縦性・面格納の運用を実現している。サブハイス自体の構造は標準的な、RX-0 ユニコーンガンダムに出力負けしないだけの性能を有していた。



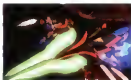
ユニコーンガンダムと近接戦を行うシナリオ、ビーム・サーベルを突き止めるまでの出力を示した。

RGZ-95 リゼルのロング・ビーム・サーベルと切り結び、それを押し通して攻撃を喰ひ切る能力を有する。



■ビーム・アックス

ビーム・アックスはシールド裏面に2基が装備された近接戦闘用兵器で、通常は片刃の斧のようにビーム刀を形成するMSN-04 ササヘのビーム・トマホークと区別し出力上げて大型のビーム・サーベルを形成することが可能で（「ビーム・ソードアックス」とも呼ばれる）、2基を連結してビーム・ナギナタとして用いることもできたという。シールドにマウントした状態でも使用でき、柔軟な運用が可能とされていた。



シールドにマウントしたままビーム・アックスを駆動させることで、シールド自体を増強兵器とした。



ビーム・アックスはビーム・サーベルよりも高出力で、シールドと近接する瞬間に切断する場面も見られた。

■シールド

本機のシールドは原型機のものに解体再構成して改造を加えた装備とされた。ネオ・ジオンの戦車をモチーフとした形状を特徴とする。兵器運用システムを兼ねる多目的装備で、2基のビーム・アックスとグレナード・ランチャーまたはバスターを裏面にマウントし、その状態で使用することが可能だった。また、鋭く尖った先端部は打突武器として用いることで、一般的なMSの装甲を易々と貫く強度を有していた。



ユニコーンガンダムのバルカン砲をシールドで防ぐシナリオ、小口部の破壊後、電撃ならぬ性能を示した。



シールドは右側関節にマウントされる構造で、防衛機構としてよりも攻撃手段に用いられる場面が多かった。

関連MS ラインナップ



MSN-04 SINANJU シナンジュ

新生
ネオ・ジオン
の象徴と
なったMS



親衛隊を
束ねる
パーソナル
改修機



新石の名を
冠せられた
UC計画の
試作MS



■ MSN-04 サザビー

UC 0093に勃発した第二次ネオ・ジオン戦争(シャアの反乱)において、シャア・アズナブルの乗機となったニュータイプ専用MS。コックピット周辺にサイコフレームを搭載したことで機体柔軟性が格段に向上し、無敵録の大活躍でありながら軽快な機動性を実現した。さらにニュータイプ専用機らしく6基のファンネルを搭載しているが、こちらはオールレンジ攻撃ではなく、支援攻撃や援護のバックアップに用いることが多かった。

■ AMS-129 ギラ・ズール (アンジェロ・ザウパー専用機)

親衛隊隊長を務めるアンジェロ・ザウパーが指揮するカスダメイズム。戦術隊長仕様のギラ・ズールにパーソナルカラー(紫)を塗り、無敵バックパックとブレード・アンテナを追加。さらに胸部に搭載された技術(エンブレピング)も他の戦術機とは異なる。戦闘ではシナンジュを駆るフロントルの戦場を汚さないことを旨とし、後方支援に徹することが多い。

■ MSN-06S シナンジュ・スタイン

UC計画においてサイコフレームの強度と柔軟性の実験を目的に試作されたMSであり、ユニコーンガンダムの系列機。後継機が建造されたが2機が「袖付き」によって撃破され、うち1機がフロントル専用機(シナンジュ)として改装された。地球連邦軍中央情報局の配属によれば「あの機体がネオ・ジオンに並べば戦力のバランスシートが狂い、再び戦争が起る」とのことだったが、一方でこの凶暴さが仕込まれたものとの情報もある。



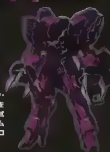
機体の最終機において、iガンダムと異なり林原正樹が演じたサザビーはアタシス上で機體し、そのままの姿で披露されている。



機体色調に白黒のアクセントを施しているとの配属もあり、これが機体の黒い機體を完成させたものと考えられている。



自らの誇りを汚したユニコーンガンダムに恥辱を感ずるアンジェロは、(ザバス)での戦闘では徹底的に攻撃を仕掛けていく。



YAMS-132 ローゼン・ズールはギラ・ズールをベースに開発された試作MS。サイコフレームが採用され、アンジェロの乗機となった。



残る1機はサイド3のジオン共闘機が襲撃。UC 0097に地球連邦軍が実証した「不死鳥の力」作戦において、ナラティブガンダム8号機と交戦した。



「袖付き」に撃破された機体は胸部と手首に露骨が露出されてフロントルに引き寄せられたが、「ラスト」機というだけあって機体色が異なりと評されている。

シナンジュ同様、フロントルが基盤。さらに本機の基盤設計もフロントルが行い、ブラックボックス化されたコア部分は有所不詳とも聞かれる。



シナンジュを中核とする拠点攻勢用巨大MA



「シャアの反乱」後に少数製造されたことから、各部隊に配備。ロンド・ベルにも配備されており、リディア・マーセナスの機體でもあった。



簡易的な可変機構を取り入れた少数生産機



四機人の少年バーナジ・リンクスがパイロットとして冒険。機体を通して急速にニュータイプとして覚醒し、超常的な能力を発揮している。



ジオン機体の象徴として開発されたガンダム



■NZ-999 ネオ・ジオング

「袖付き」がフロントルのために設計・開発した巨大MA。一年戦争の最終決戦でシャア・アズナブルが搭乘したMSとして知られるジオングの名称と機体コンセプトを継ぎ、脚部を廃した機体は全長100mを超えるが、シナンジュのインテンション・オートマチック・システムを反動したことで、フロントルの牽制機能を喪失した。多数の高出力武器や大型サイコミュ兵器を搭載した、他の機体を圧倒する規模外のMAとなった。



サイコシャード発生時は、ユニコーンガンダムが引き起こした超自然的現象を人為的に発生させられるものの、いまだに多くの謎を含んだシステムである。



「ラプラスの罠」後、黒い軍に開発された兵器（ネオ・ジオング）だが、ルサ・バネンとジオン外務省との関係で未公開と発表され、U.C.0097の戦いで開発中止されている。

■RGZ-95 リゼール

Z系列に属する可変MS。堅固性の低下と開発コスト増大に直面する変形機構を廃止し、Zガンダムとメタスの変形を参考にした履帯機構を採用。従来の可変機が多く抱えていた関節床をクリアした一方、リミッターによる機体性能の引き下げと新型OSの導入によってピーキーな操作性も緩和。これにより新兵での扱いも容易になった。しかし一部のベテランパイロットはあえてリミッターを外し、過剰な操縦系を好んだとされる。



変形後の履帯機構はZガンダムと同等。WR（ワイプライター）形態と呼ばれる。SFSとしても機能し、他のMSを駆逐しての作戦が可能。



開発時には基本性能を再調整した特許仕様機（C型「コマンドタイプ」）が考えられる。両腕のウイング・バスターとメガゼム・ガンチャーが外見上の特徴となる。

■RX-0 ユニコーンガンダム

地球連邦宇宙軍再編計画の一端である「UC計画」から誕生した機体。「シャアの反乱」で限定的に使用されたサイコフレームを機体のすべてのムーバブルフレームに採用したフル・サイコフレーム機である。宇宙戦時の戦線に赴くニュータイプ精神を科学技術の力で打ち替く意図としての意味合いを持ち、ニュータイプの存在を懐疑するとリミッターを削除したデストロイモードに「変身」。開発者も意図しない能力を発揮した。



ネオ・ジオングとの戦闘ではパイロットの扱いとフルサイコフレームが最大の特徴。機体だけでなく、対面を浄化するかのようになされるという現象を引き起こした。



「袖付き」との最終決戦に際して急遽開発されたフルアーマー仕様。急ごしらえの形骸だがバランはよく、'変身'にもバグ士達の干渉は発生しない。

MSパイロット——フル・フロンタル——

ネオ・ジオン残党軍『袖付き』を率いた仮面の男 隠された素顔と窺いしれない真意

フル・フロンタル——ネオ・ジオン残党軍『袖付き』の首魁にして、『シャア・アズナブルの再来』と呼ばれた仮面の男。その素性は謎に包まれているが、U.C.0093の「シャアの反乱」で指導者失って瓦解の危機にあったネオ・ジオン残党を糾合し、『袖付き』を組織した人物として知られる。「赤い彗星」を想起させる卓越した操縦技術と冷徹な指導力を備えるフロンタルは、変革を志したカーデイス・ビストの計画に乗じて「ラプラスの箱」を手

中に収めようとした。開放されれば地球連邦政府を転覆させると言われる「箱」と、その「鍵」となるRX-0 ユニコーンガンダムを狙い、フロンタルは幾重にも策謀を巡らせていく。謀略の先に目指すものを仮面の奥に秘め、「箱」を巡る争いを拡大させていくフロンタル。U.C.0096の、ちに「ラプラス事変」と呼ばれたその争乱のなかで、フロンタルは目的のためにあらゆるものを利用し、自らも戦場に立って全てを賭けたのだった。



卓越した才能を発揮して、権力者をもとめ上げ、箱を手に入手すべく謀略する。パイロットとしても優れた技術を示し、シナンジュを駆ってユニコーンガンダムの前に立ち上がった。



フル・フロンタル

DATA

年齢：不詳 所属：ネオ・ジオン残党軍『袖付き』 階級：大佐 出身：不明 能力：MS操縦、作戦指揮



連邦軍に捕らえられたユニコーンガンダムを奪取するためにネエレ・アーマーを襲撃し、バナージと向き交える。



バラオでバナージと対面するフロンタル。箱の情報を得るため彼の言葉を試みるも、その場では話を返らせていた。

フロンタルが着用した軍服は赤色を基調とし、モールがあしらわれている。

▶「ラプラスの箱」の入手を目論んだフロンタルの動き

U.C.0094、連邦軍の艦艇が襲撃を受けた事件で、フロンタルの名は広く知れ渡る。紛争中のAEI(アナハイム・エレクトロニクス)社試作MSを盗奪し、単機でクラブ・コロニー2号を沈め、「シャアの亡霊」として世に出たフロンタルは、ザビ家の遺児ミネ・バラオ・ザビを担ぎ上げて「袖付き」を整備していく。そしてU.C.0096、「箱」を譲渡するというラピスト財団の提案を奇貨とし、行動を開始した。だが、「箱」の「鍵」となるユニコーンガンダムがバナージ・リンクスの手に渡ると、

シナンジュを駆ってユニコーンガンダムの確保を図り、バナージを捕虜とする。さらに、フロンタルは遠距離星(バラオ)と友軍を捨て駒にして「箱」の所在を突き止めようとした。その悪惑の下、旧首相官邸(ラプラス)でユニコーンガンダムを襲い、「箱」へと誘導しようとしたフロンタルだったが、NT-Dを発動したユニコーンガンダムに苦戦を強いられる。だが、戦いのなかでユニコーンガンダムは地球へと落下し、フロンタルは宇宙から動向を見定めていくこととなるのだった。



旧首相官邸(ラプラス)でユニコーンガンダムを狙うも、重力の井戸の底に落ちる様を見送ることになる。



「箱」の在り処を示すラプラス・プログラムの封印を開くため、マリダ・クルスをかませ犬に利用した。

『箱』の「鍵」バナージへの興味と 少年に垣間見せた自らの内面

『箱』の入手を目論むフロンタルにとって、カーディアスからユニコンガンダムを託されたバナージは計画の障害にならねないイレギュラーな存在だった。だがその一方でフロンタルはバナージに興味を抱き、描像としてバラオに運ばれた際にも(表面上は)穏便な態度で接した。さらに、バナージの洞察力の鋭さを評価し、「宇宙に棄てられた者たちの想いを受け止める器」という自らの在り様を語っている。また、のちにバナージたちとの関係が完全に決裂すると、「箱」をみんなのために使うと語るバナージに対し、「いつか私と同じ絶望に突き当たることになる」と説いて配下に引き入れようとした。それはバナージの才能を買ってのことであると同時に、数奇な運命を背負った少年にある種の共感を抱いたがゆえの言動だったのかもしれない。



瑞穂静香とバナージにスペースノイドの病状を告げ、「箱」にはまだ学ぶべきことがたくさんある」と語った。



瑞穂を見て懐かしいというバナージの言葉に、フロンタルはマスクを外す。



『ラプラス事変』の使役、フロンタルはバナージに己の面を垣間見せた。

フル・フロンタルを巡るさまざまな人間関係



フロンタルの制服は後編が長いテールコート状のデザインが特徴。



フロンタルはミネバを「嬢様」と呼んでうやうやしく慕っていたが、あくまでジオンの幹部としての彼女を必要としていたにすぎなかった。

▶バナージが見たフロンタルの内面

バナージは『箱』の「鍵」を託された者としてフロンタルと相対する運命を課せられた。そして争いのなかで彼の内面に潜む闇を垣間見ることにになった。



サイコフレームの光に人の温かさを奪ったバナージは、フロンタルとは異なる顔を見せようとする。

バナージは、闇を運ぶ争いのなかで無償でも打ちのめされながら、人の可能性を信じて戦った。



▶MAIN MS

MSN-06S シナンジュ

AE社が試作したサイコフレームの実験機を改修したMSで、ユニコンガンダムの兄弟機にあたる。フロンタルの専用機として圧倒的な性能を示した。

AMS-119C ギラ・ドーガ

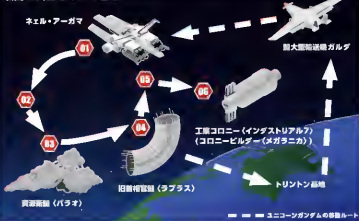
(フル・フロンタル専用機)
『シャアの反乱』においてネオ・ジオンが運用した主力MSの改良機。シナンジュ以前にフロンタルが搭乗していたとされる。



周囲に圧倒的な存在感を示した真紅のMS

「ラプラスの箱」を巡る一連の事象において、ネオ・ジオン残党軍首魁の乗機となったシナンジュは、常に中心的な役割を帯びていた。

戦場の舞台となった地域



工業コロニー（インダストリアル7）

L1に位置する密閉型スペースコロニー。施設の管理・運営はAEIアナハイム・エレクトロニクス社が担当している。

資源衛星（バラオ）

L1宙域に存在する資源衛星。ネオ・ジオン残党軍「袖付き」が活動拠点としており、ネル・アーガマとエコーズによる強襲で基地委員とその家族にも大きな被害が出た。

旧地球連邦政府首相官邸（ラプラス）

地球の低軌道に建設された宇宙ステーション。U.C.0001、宇宙世紀への改選セレモニーが行われたのが、テロによって破壊。U.C.0096では史跡として保存されている。

トリントン基地

オーストラリア東部に位置する地球連邦軍基地。U.C.0083の頃は新型MSをはじめとする兵器の運用試験場となっている。

コロニービルダー（メガロニカ）

〈インダストリアル7〉の建造を行う大型建設施設。ビスト財団の私有物で、巨大航空戦艦としての機能も有する。

01

ネル・アーガマ、強襲

U.C.0096、特命を受け、工業コロニー（インダストリアル7）でビスト財団との会見に臨んだランランシェール隊は、「ラプラスの箱」の譲渡交渉を行う。しかし、この交渉を断ったネル・アーガマがコロニーに侵入し、「箱」の入手に失敗したばかりか、「箱」の情報が封印されたユニコーンガンダムとミネルバ・オーガビをネル・アーガマに回収されてしまう。報告を受けた「袖付き」の首魁フル・フロンタルは自らシナンジュで出撃。ネル・アーガマに強襲を仕掛けた。



リゼル 他

02

ユニコーンガンダムとの交戦

ユニコーンガンダムの即時引き渡しを要求するフル・フロンタルに対して、ネル・アーガマはミネルバを人質にして撤退を求めた。しかしフル・フロンタルは人質の真偽を問わない以上、要求には応えられないとし、ネル・アーガマに攻撃を加えようとする。すると、ここで意外な事態が発生した。ユニコーンガンダムが発砲し、シナンジュに攻撃を仕掛けてきたのだ。シナンジュは圧倒的な機動性に誇り、ユニコーンガンダム。両機は互角の戦いを演じていたのだが……。

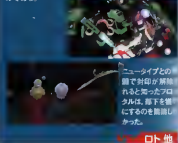


ユニコーンガンダム

03

「バラオ」攻略戦

「袖付き」に「箱」の情報が流れたことを恐れたネル・アーガマはユニコーンガンダムとバロムット（バーニング・リクス）の軍艦作戦を計画。エコーズとの共同で「袖付き」の活動拠点・資源衛星（バラオ）に攻撃を仕掛けた。攻防戦の最中、フル・フロンタルは「箱」をユニコーンガンダムに差し向けた。「箱」の情報を得るにはユニコーンガンダムの封印を解かねばならず、クシャトリヤを捨て駒として封印の解除を試みるのである。



ロト 他

戦況の経緯

第二次ネオ・ジオン戦争（シャアの反乱）の失敗によってネオ・ジオンは実質、地球連邦政府や連邦軍への武力闘争も下火になると考えられた。しかしフル・フロンタルの出現によって事態は一変。アクシズやネオ・ジオン（ハマーン/シャア）、公国軍残党をまとめ上げ、連邦軍に対する反乱を表明した。ちなみに彼の終極の野望にはU.C.0100に推したサイド3のジオン共和国の自治権放棄が関係している。スペースノイドの自治の象徴であったサイド3の自治権が消失すれば、地球圏は連邦政府の支配下に置かれてしまう。この事態を打開すべく新たな社会体制を生み出すのが究極的な目的だった。

U.C.0001

・1月1日 ラプラス事件、発生。

宇宙世紀への改選セレモニー中、テロによって低軌道宇宙ステーション（ラプラス）が破壊（ラプラス事件）。リカルド・マーセナス連邦政府初代首相をはじめ、連邦構成国代表が多数犠牲になる。

サイラム・ビスト、宇宙世紀戦争のちに「ラプラスの箱」を発見

首相官邸爆破テロ組織とそれを支援していた分業主義国家、連邦軍によって壊滅。以後、反地球連邦政府運動の激化した取り締まりが開始。

U.C.0089

・連邦軍、スペースノイド寄りのコロニーに対する経済制裁を強化。

U.C.0090

・3月 外務新鋭部隊ロンド・ベル、設立。

U.C.0093

・2月27日 ネオ・ジオン総帥シャア、テレビ放送を通じて連邦政府に事実上の宣戦布告。

・3月 第二次ネオ・ジオン戦争（シャアの反乱）勃発。地球に落下しつつあった小惑星基地アクシズが、サイコフレームの働きで軌道から外れる（アクシズ・ショック）。

地球低軌道での戦い

クシャリヤとの戦いによって「箱」の存在に関する情報が宇宙ステーション（ラプラス）に届いていることを知ったネル・アーガマは緊急出陣に移動。一方、情報を得たフロントルも（ラプラス）へ移動を開始。低軌道に位置する宇宙ステーション内で戦闘が勃発することになった。激しい攻撃の余波を受けて宇宙ステーションは崩壊し、残骸が地球へと落下していき。赤熱化した鉄片が降り注ぐ中でシナンジュとユニコーンガンダムは戦いを続けるのだが、ついにユニコーンガンダムが地球へ落下。一方、居残ったフロントルは地上のジオン残党と接触。「箱」に関する新たな情報の入手を画策するのだった。

エコース 920 降司令ダグ・マクルによる不意打ちを受けたシナンジュは、これを撃退したのだが……



目の前でダグを救ったのはバネジの経理員。地球低軌道で激しい戦闘が繰り出されていた。

V ユニコーンガンダム

ネル・アーガマとの一戦再開

地球から解雇されたユニコーンガンダムを回収したネル・アーガマだが、地球連邦軍上層部から討伐対象とされてしまう。「箱」の秘密に迫り過ぎたために危険視されたのだ。地球軌道戦艦旗艦ゼラルール・ビルから攻撃を受けるネル・アーガマ。その危機を救ったのは、これまで敵対していたフロントルだった。利害の一致をみてネル・アーガマに休戦を持ちかけたフロントルは、「箱」の回収の協力を求める。しかし「箱」の用途についてフロントルとミネバが袂を分かったことで関係は決裂。さらにコロニービルダー（メガナリカ）に「箱」が隠されていることが判明し、ときには激しい争奪戦が繰り出されてしまった。

ネル・アーガマ討伐に派遣されたジェガンA2型艦だったが、立ち止まるシナンジュに押された。



一時的な同盟を結ぶ。シナンジュは「箱」を運ぶバネジを助ける。シナンジュは「箱」を運ぶバネジを助ける。

V ジェガンA2型

MS OTHER 戦記

ジオン公国軍残党への影響力

一年戦争の敗戦でジオン公国軍は解体されたが、これを是としない勢力（公国軍残党）は地球内外に潜伏し、ゲリラ活動に身を投じた。とはいえ小グループが散発的に反乱がどこかで効果的だったかは疑問であり、彼らに必要なものは資金と武力。そして各地に点在するジオン残党軍を取りまとめる反乱作戦を指揮するリーダー的な存在だった。U.C.0096に勃発したネオ・ジオン残党軍（袖付き）は、ジオン残党軍を率いる存在と見なされに違いない。規模だけでなく「シャアの再来」と目されたフル・フロンタルの存在は、消え入りそうなジオン残党軍の士気を再び高めるのに必要とされたのだ。これは「袖付き」側も理解していたが、彼らはジオン残党軍との共闘を真実に考えていなかった面がある。「袖付き」にとってもジオン残党軍は一時的に利用価値のある存在に過ぎず、価値が失われれば切り捨てられていった。

ラプラス・プログラムの封印を解くべく、フル・フロンタルはジオン残党軍と接触。武装協力を促した。



連邦軍への反抗の機会を得たジオン残党軍は協力に同意したが、フル・フロンタルの真意は気づかなかったようだ。

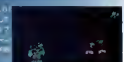
「ラプラスの箱」争奪戦

ビスト財団系主イサム・ビストが保有する「箱」の下に送り着いたバネジとミネバだが、そこにフロントルも出現。自ら「箱」の正統なる継承者であると主張する。だがバネジがそれを否定したことで、両者はついにMSでの戦いに突入した。ユニコーンガンダム2号機バンシィ・ノルンの協力を得たバネジだが、シナンジュをコアユニットとするネオ・ジオングの前に苦戦。さらにフロントルは使用者の脳内イメージを具現化するサイコシャード発生機を駆使してバネジを襲撃。宇宙という新たな生活の場を得たにもかかわらず、戦いを止められない人類の歴史を示し、バネジを取り返そうとする。しかし人の可能性を信じるバネジが絶望を振り払ったことで、フロントルの目論みはついに潰れた。



「箱」(改修レモニーで発着予定だった宇宙世紀車庫)の前に、より現れたフロントル。現状を維持するため露ら可能性を握ることとしない人類にフロントルが示した「箱」の使い道とは、連邦政府との交渉材料にすることで、彼の望む「サイコ共楽」を実現させることだった。

「メガナリカ」に姿を現したネオ・ジオングは、ユニコーンガンダムを倒す。バネジは「箱」を運ぶ。



しかし圧倒的な火力とサイコシャードの能力によって、機体を破壊されてしまった。

V ユニコーンガンダム 他

「可能性」がもたらした結果

サイコシャードを駆使して戦争を繰り返す人類の歴史を示し、バネジを支配下に置こうとしたフロントル。しかし人の可能性を信じるバネジはフロントルの誘いを拒絶。逆にフロントルに、人の持つ温かさを伝えようとした。そんなバネジの想いがユニコーンガンダムのサイコフレームと最大限に共鳴した結果、シナンジュは浄化されたかのように崩壊。フロントルも自らに課せられた呪縛から解放されて生きることを止め、一連の事象は終焉を迎えることになった。

ユニコーンガンダムに壊れたシナンジュは、機体素材が自己分解するかに崩壊している。



シナンジュの残骸からは、何事かの思念が宇宙に漂っている様子が見えたとはいえ、詳細は不明だ。

U.C.0096

ビスト財団主イサム・ビスト、ネオ・ジオン残党軍「袖付き」と、「ラプラスの箱」の引き渡しに関する交渉を開始。

4月7日 「ラプラス事件」勃発。

最終的に「箱」がコロニービルダー（メガナリカ）にあることが判明。争奪戦の果てに、ミネバ・バウ・ザビによって「箱」の正体が開示される。

5月4日 「ラプラス事件」終結。

連邦軍、サイコフレームおよびサイコフレーム搭載機の研究開発を封印。

U.C.0097

2年前に消息不明となっていたユニコーンガンダム3号機 フェネクスが地球圏に出現。

連邦宇宙軍シェザール隊、「不死鳥狩り」作戦に参加。

袖付き が運用したシナンジュは、サイコフレームを採用していることもあり UC計画に連なる機体といえる。その特性を最大限に活用するために、ハルユニットが建造された

KEYWORD

UC計画

宇宙世紀第2次計画の一端として実用され、MSの設計。フル・サイコフレーム機の建造が、われ、テスト機としてシナンジュ・スタインが建造された

袖付き

ジオ・ジョンの開発総局で、使用するMSの宇宙部分に建造された機体からこう呼ばれる。0096、フル・サイコフレームを指導者とし、「ア・ス事案」の指導下で、この機体の一つである。

「ラブラス事案」

0096に開発したテスト機が指導する、ラブラスの機を、この事案、袖付き、中核部隊、指導者などの間で、争奪戦が繰り、最終的に「機」の真実が明らかとなる。

MSN-06S

シナンジュ・スタイン

UC計画で開発された試作MSで、開発コードは「スタイン01」サイコフレームの強度や信頼性の実証試験のために建造されたために、ハイロの搭乗は予定されていない。UC0094、移送中に袖付きに発見され、実態は強要に見せかけの譲渡、シナンジュに改修された。



発展

RX-93

vガンダム

アムロ・レイが設計に関わったガンダムタイプMSで、建造はAEIアナハイムエレクトロニクス社のフォン・ブラウン工場で行われた。第1ガンダムタイプMSのデータが反映されているといわれる。さらに一部にサイコフレームを採用したことによって極めて高度な機体運動性を誇る。



発展

RX-9

ナラティブガンダム

AE社がサイコフレームの試験のために建造した、多目的試験用MS。UC0097に実用化された不死鳥号の作戦に投入されたが、その際の機体にはサイコフレームは搭載されておらず、A部隊をはじめ各戦隊を機体で運用された。



RX-93 vガンダム

(ダブルフィン・ファンネル装備型)

vガンダムのハ・ク・ハ・クを改修し、フィン・ファンネルを左右に3基ずつ計6基を装備可能とした形態。胸部装甲をはじめ機体の一部や武装の形状が通常のvガンダムと異なっている。フィン・ファンネルの増設も可能となったよう



FA-93HWS vガンダム

(ヘビーウェポン・システム装備型)

vガンダムの機体強化を前段に立案された形態。FA-78-1フルアーマーガンダムの設計思想をvガンダムに反映し、増加装甲を装備することで防御力を強化。この増加装甲にはスラスターも備えているため、機動性も向上している。また、メカセラム・ライフルなどの装備により火力も強化された。



同型機改修

MSN-06S シナンジュ

「袖付き」の機体であるフル・フロントルの専用機で、基盤のフラッグシップ機。改造したシナンジュ・スタインをベースとして、機体色の変更やエンブレミングの追加といった外見上の改修に加え、操作系や機動力なども改修が施されている。ムーバブルフレームの一部にサイコフレームを使用したほか、「インテンション・オートマチック・システム」が採用されており、極めて高度な操作性を有する。また、バックパックのフレキシブル・スラスターと両脚部のスラスターによって高い機動性と靈活性を確保した。

改装

転用

NZ-999 ネオ・シオング

シナンジュをコアユニットとする巨大MAで、外殻部分は「ハルユニット」と呼ばれる、メガ粒子砲や有線式大型ファンネル・ビットなどに加え、2基の1フィールドジェネレーターによる高い攻防力を持つ。また、両肩にはサイコシャード発生器を備えるなど、ニュータイプ専用機としても高度な性能を有していた。

NZ-999

II ネオ・シオング

ネオ・シオングの予備パーツを用いて改造された機体。基本的な性能や機体はネオ・シオングと同一だが、両前腕に有線放電機能が高加されたほか、胸部ツェンヘイのハンチが壊されるなど、いくつかの改修が行われている。シナンジュ・スタインをコアユニットとするが、ナラティブカンタムとト・キルクは、例も確認されている。

転用

MSN-06S-2 シナンジュ・スタイン

袖付きに改造された2ユニットのうちのひとつ。カラーリングは原型機に準ずるが、胸盾や手首に、エンブレックが施されるなど、袖付き仕様となっており、武器やヘルムも専用のものに変更されている。UC 0097の「不死鳥」作戦に投入されている。実際はネオン共和国所属機であった。

「UC計画」への関係と「事変」への関与

シナンジュの原型機であるシナンジュ・スタインは、元を辿ればUC計画によって開発された機体である。袖付きによって強度（実際は運動）が改修されたことで機体はシナンジュとして運用されたが、得られたデータがRX-0ユニコーンガンタムの開発に反映されたことは想像に難くない。異なる道を辿って開発された2機のMSは、UC 0096に勃発した「ラプソディ」事件において対峙し、それぞれに異なる役割を担ったのだ。

RX-0 ユニコーン ガンタム





アームドベース

ガンダム試作3号機用として初めて実用化された、いわゆる「アームドベース」はMSを管制ユニットとして用いるMA的大型機動兵器である。MSとMAが対峙する姿は、可変MAの亜種といってもいいものであった。



MSによって制御される MA的大型機動兵器

RX-78GP03 ガンダム試作3号機のオーキスやNZ-999 ネオジオングのハルユニットなど、管制用MS/コアユニットとの連動機構を有するMAの大型機動兵器が、いわゆる「アームドベース」である(コアユニットとアームドベースは統一的な名称ではないが、今回は総称として用いた)。パイロットが搭乗するコアユニットは、アームドベースを含む兵器システム全体の管制と手持ち装備の使用を担う程度で、火力、防御力、機動力のほとんどがアームドベースに集中している。アームドベースは基本的に無人だがサブコックピットを有するモデルも存在した。

アームドベースが他のMS用オプションと異なるのは、MS本体より遥かに大型な点にあり、アームドベースが「主」、コアユニットが「従」のケースすら珍しくない。これは、コアユニットがアームドベースを装着した状態での「頭脳」はコアユニット側だが、戦闘機能の大半をアームドベース側が担っているということの意味する。FF-X7 コア・ファイターとRX-78 ガンダムの関係もこれと同様といえる。

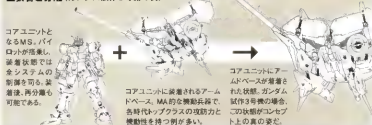
コアユニットとアームドベース

ガンダム試作3号機やネオジオングのようなアームドベース機は、兵器システム全体を管制するMS=コアユニットと、MA的な大型機動兵器のアームドベースで構成される。コアユニットは18~20m級の一般的なサイズのMSだが、アームドベースは100m以上に達する例も多い。



コアユニットとアームドベースでは、戦闘力や機動性は前者が圧倒的に勝る。開発は同時並行が、アームドベースが後発となる。

■装着と分離 (ガンダム試作3号機の例)



コアユニットとなるMS、パイロットが搭乗し、装着状態では全システムを制御可能。装着後、再分離も可能である。

コアユニットに装着されるアームドベースは、MA的な機動兵器で、各時代トップクラスの戦闘力と機動性を持つ例が多い。

コアユニットにアームドベースが装着された状態。ガンダム試作3号機の場合、この状態がコンセプト上の真の姿だ。

■コアユニットとアームドベース(装着状態)の性能差

| | ガンダム試作3号機 | | ネオジオング | |
|-----------|--|--|--|--|
| | MS本体 | MS本体+アームドベース | MS本体 | MS本体+ハルユニット |
| 制式番号・機体名 | RX-78GP03S ガンダム試作3号機 スタイメン | RX-78GP03 ガンダム試作3号機 | MSN-065 シナンジュ | NZ-999 ネオジオング |
| 全高 | 18.0m | ~メカビーム砲を除く全高73.0m | 22.6m | 80.0m |
| 全長 | 18.0m | 38.5m(メカビーム砲を含む全長140.0m) | - | 116.0m |
| 本体重量 | 41.6t | 226.4t | 25.2t | 153.8t |
| 全機重量 | 70.0t | 453.1t | 56.9t | 324.3t |
| ジェネレーター出力 | 2,000kW | 38,900kW | 3,240kW | 35,660kW ~計画不能 |
| スラスター総出力 | 188,000kg | 2,265,000kg | 128,600kg | 28,827,500kg ~計画不能 |
| センサー有効半径 | - | - | 23,600m | 23,600m ~計画不能 |
| 装甲材質 | ルナチタニウム合金 | ルナチタニウム合金 | ガンダリウム合金 | ガンダリウム合金 |
| 武装 | ビーム・サーベル×2 ビーム・ライフル フォールディング・バズーカ×2 フォールディング・シールド | メカビーム砲 大型ビーム・サーベル×2 マイクログリッド・ガン×2 大型反重力サイロ×2 標準砲×2 | ビーム・サーベル×2 ビーム・アックス×2 ビーム・ナギナタ×2 ビーム・ライフル ロケット・バズーカ グレネード・ランチャー 60mmVFLカン砲×2 | 胸部大型メカ粒子砲 有線式大型ファンネル・ホム 胸部フルードジェネレーター 大口径ハイメカ粒子砲 サイコシールド発生装置 (MS装備分含まず) |
| | ハイパー・バズーカ (MS装備分含まず) | ワイヤー・ドリル・ランチャー (MS装備分含まず) | | |

TECHNOLOGY INFO

非MSの「アームドベース」

コアユニットをMS以外としたアームドベース機も存在する。MAベースの機体としては、MA-05 ビグロとAdユニットを合体したMA-05Ad ビグ・ラングが最初期のものだが、これは分離機能を持たなかった。アームドベース機そのものが少ないため、同様のコンセプトを持つ非MSタイプはわずかだが、時折開発され実戦投入も実施されていた。



コア・アースターは、コア・ファイターをコアユニット、増設アースターをアームドベースとした機体といえる。

MA ビグロと、前脚で変形機に転換可能なAd(可換機動)ユニットを組み合わせた巨大MA ビグ・ラング。



ZMT-A31S ドップ・ゴープ。テール・ラッドと呼ばれるユニットを多数搭載しており、全長370mの巨体を誇った。

管制特化のコアユニット

コアユニットは、MS本体だけでなく後継機のアームドベースもフルコントロールする管制モジュールである。ステイメンのように、コアユニットとして設計された機体も存在する。



装着分離機能

コアユニットとアームドベースはドッキング機能を有し、装着と分離が行える。このため、コアユニットを緊急時の近接戦闘用や脱出機構として用いることも可能となっている。



コアユニットとアームドベースは互いにドッキング機構を持つが、想定外のMSを装着した例もある。

巨大なアームドベース

コアユニットと比較して、アームドベースは著しく大型なものが多く、MS側から管制されるユニットとしては最大である。試作3号機の場合、武装を含む全長は140mに達する。



アームドベースへの戦闘能力の依存

装着状態で使用される武装や推進器などは、アームドベースに集中的に装備されている。その巨体ゆえに搭載機器は高出力であり、特に火力と機動力は一般的にMAを凌駕する。



ワイヤー・ドリル・ランチャーやサイコミュ関連装置など、一般的MSでは装備困難なデバイスが目立つ。

代表的なアームトベース系機動兵器

システムの巨大化にともなう高コスト化や運用プラットフォームの制限、MSとMAの両立が可能なMAや可変MAを実現できたことと同等の理由で、アームトベースの開発件数は多くない。それでもアームトベースのシステムを確立したガンダム試作3号機以後、度々計画・開発され、おおよそU.C.0090年代中期には究極のプラットフォームであるネオ・ジオン・ウ

およびネオ・ジオン（完成品）をたまたまコアユニットにアームトベースを装着すると一構造的な共通点を除けば、各機のコアユニットは異なる。例えばガンダム試作3号機はコアユニットはMAが苦手とする近接戦闘や戦闘行動時の緊急登降などを目的とする。ネオ・ジオン・ウの場合、コアユニットのサイコフレームを最大限に活用する機体である。



ガンダム試作3号機はコアユニットが「座」、ネオ・ジオンウでは「主」といえる

■ガンダム試作3号機

攻防力と機動性に秀でる拠点防衛・攻略用のMAの巨大機動兵器。コアユニットのMSシステム、アームドベースのオーキスで構成される。通常の戦闘はアームドベースが、近接戦闘などをコアユニットが担う設計思想であり、MAとMSの特性をあわせ持っている。



オーキスの特徴であるウェッジコングラナ。100連発のマイクロミサイル・コンテナなどを搭載。



RX-78GP03S
ガンダム試作3号機
ステイメン



RX-78GP03
ガンダム試作3号機

■ガンダムTR-6「インレ」

ティターンズの決戦兵器として開発されていた機体。TR-6「ウインドウォート」をコアユニットに、「ファイバー（上半身）」と「ダンディライアン（下半身）」を装着した形態で、TR-6の最終・究極形態にあたる。大気圏内外を問わず運用可能で、大気圏内突入能力も有する。



万能化推進システム。巨大かつ多様なオプション装備。可変機構などを有する。第四世代MSでもある。



RX-124
ガンダムTR-6
「インレ」

RX-124
ガンダムTR-6
「ウインドウォート」

■ジャムル・フィン（ブースター装備）

可変MAをコアユニットとした珍しい例。第一次ネオ・ジオン戦争時のネオ・ジオン軍可変MAジャムル・フィンにメガ・ランチャー型ブースター「メガ・ブースター」や、木星軍方面での運用を想定した「ヒノ・ブースター」を装着した形態として計画された。



メガ・ブースターはジャムル・フィン本体と同程度、ヒノ・ブースターは推定100m以上に達する。



AMA-01X
ジャムル・フィン



AMA-01X
ジャムル・フィン
（メガ・ブースター装備）

■ネオ・ジオン

サイコフレーム搭載のMSシナンジュに機動性能のみに作用していたシナンジュのサイコフレーム能力を最大限に引き出すべく開発されたサイコミュ増幅器「ハルユニット」を装着した機体。ハルユニットには有線誘導兵器や17ワールドジェネレーターも備える。



サイコシャート発生時は、サイコフィールドに近い現象を人為的に引き起こすことができた。



MSN-065
シナンジュ



NZ-999
ネオ・ジオン

■日ネオ・ジオン

ネオ・ジオンの予備パーツを用いた機体。想定されたコアユニットはフル・フロントル機とは別のシナンジュ・スタイン。サイコシャート発生器を含む基本機能はオリジナルと同じだが、前腕の有線誘導機能の追加、ウェポンベアの前面ハッチの廃止などの変更がなされた。



オリジナル同様、この機にのみある「技術」が用いられており、擬似サイコフィールドを制御可能だった。



MSN-065-2
シナンジュ・スタイン



NZ-999
日ネオ・ジオン

■ナラティブガンダム A 装備

U.C.0097の「不死鳥賞」。作戦に投入されたナラティブガンダムの一形態。凄まじい機動性能を持つRX-Q.ユニコーンガンダム3号機フェイクスを追従・捕縛するため、追従機動の強化パーツを装着した。ナラティブガンダム自体はサイコフレームの試験機だった。



夜会特殊兵装「サイコ・キャプチャー」は、フェイクスの動きを封じることが可能であった。



RX-9/A
ナラティブガンダム A 装備



RX-9
ナラティブガンダム

■クレヴェナール

「ラプラス事変」直後、フロッグ・エンゼルンの私兵軍団バーナムが運用したアームドベース機。コアユニットはアレックスの改修機ガンダムAN-01トリスラン。アームドベースはバーナム製であり、双方の開発組織や開発時期が異なる珍しい例となっている。



クレヴェナールの構造はガンダム試作3号機のオーキスに似ているが、開発者や開発経緯は不明



RX-78AN-01
ガンダムAN-01
トリスラン



RX-78KL-01
クレヴェナール

アームドベースの 誕生と衰退

一年戦争の時点で、地球連邦軍のGアーマーやジオン公国軍のモビルダイバーシステムのような、アームドベースの原型的兵器は既に誕生していた。ただし、攻防力や機動性の大半を担うMA的大型機動兵器としてのアームドベースが完成したのは、「ガンダム開発計画」においてU.C.0083にロールアウトしたガンダム試作3号機が最初期のものである。

その後、U.C.0090年代にかけてネオ・ジオンダに至るアームドベース機が開発されたものの、絶対数は少ない。前述したコスト面や運用面、可変機の登場以外の理由としては、そもそもアームドベース機自体の必要性が低いことがあるだろう。ドッカル機構を持たない、巨大MAを建造したほうが合理的だからである。ネオ・ジオンやクワレヴァールの場合、希少な高性能MSを最大限に活用するという運用・提供組織側の都合があるが、過渡期的な処置だと考えていいだろう。

U.C.0100年代に入ると、小型MSの利点を損なうこともあってかアームドベースの開発例はほぼ消滅されなくなり、姿を消したのだった。

TECHNOLOGY INFO

メガ・ランチャー

アームドベース以外で管制にMSを利用する兵器にメガ・ランチャーがある。これはMS用メガ粒子砲の一種だがMS本体より大型であり、装備状態で機動機動を行うのは難しい。つまり、携行兵器というよりは「管制にMSを利用する火器」とするのが実態に近いのだ。この問題はメガ・ランチャーの小型化やMSとの一体化で解決に向かった。



ベスパのザンネックやゴトラタンは、SFSとの同時運用やバックパックとの一体化によって問題を克服した。

グリス戦役時、連邦軍で運用されたメガ・ランチャー。エネルギー供給に2機のMSが必要なりえ、極めて長大であった。



エネルギーのメガ・バースカ・ランチャー。伸縮機構と補助推進器を備えるが、展開状態ではMSごと無防備になりやすい。

アームドベースの前後史

アームドベースの開発前後には、その前身や小型版と呼ばれる兵器も存在した。サブ・フライトシステム（SFS）と大型兵器が一体化したもののながし。初期には長距離連撃機Gファイター。のちにメガ・ランチャー一体型SFSのメガ・ライダーなどが登場している。



MSの機動力や飛行能力を代替するSFS、火力のみを強化するメガ・ランチャーは、アームドベースの一機能を抽出した兵器ともいえる。

■一年戦争期（連邦軍）

一年戦争時の連邦軍では、のちのガンダム試作3号機に強い影響を与えたというGアーマー、アームドベースに近い機能の重武装機マー・ガンダム7号機などが開発・計画されていた。大型ビーム火器搭載型SFSといえるバスターライナーも計画されたと見られている。



MSと戦艦・航空機が合体したGアーマーの発想は、アームドベースの原点といえる。だが、合体状態での主操縦はMS側から行なわれた。



■一年戦争期（公国軍）

公国軍が試作したモビルダイバーシステムは、管制機動ユニットのゼーゴックと大型機動コンテナ（L.W.C.）を組み合わせたもので、アームドベースに近い構造を実現。ただしL.W.C.は武装のみを内蔵した。

モビルダイバーシステム



バスターライナーに似た機動推進スクワレを開発。ゼーゴックはモビルダイバーシステムの機動力ももった。

■U.C.0080～90年代

ガンダム試作3号機を皮切りに、アームドベースが実用化された。アームドベース機がウルトラハイエンドの兵器システムだったこともあって開発例は少ないが、同時期にSFSやメガ・ランチャーの開発が加速し、アームドベースの機能は部分的に普及する形となった。



一年戦争にも重武装のSFS時兵器はあったが、より高性能・多機能化した白ディフェンサーやメガ・ライダーなどが誕生している。

■U.C.0100年代初期

U.C.0100年代に入ると、第二期MSの開発にともないアームドベース機は見られなくなったが、第五世代MSのペーネロペーは機動装置や兵器などが一体化したFF（フィックス・フライド）ユニットを搭載した。

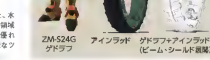


初期の第二期MSはSFSを含むオプション装備を多用しなかったようだが、アームドベースの装備例も知られない。



■U.C.0150年代

ザンスカール戦争時、ベスパは大気圏内外両用の車輪型SFSインラブを投入した。インラブはMSの機動力のみならず火力と防衛力も補助する兵器で、最小のアームドベースといっても過言ではない。



宇宙、空中、地上、水上、水中など運用領域を問わずいとも優れる。2機搭乗可能なインラブも開発

推進システム

MSやMAの推進器は、ミノフスキー・イオネスコ型熱核融合炉(核融合炉)の炉心で超熱した推進剤を噴射することで推力を得る熱核スラスターが一般的だが、旧来の化学燃料ロケットやレーザー推進システムなども併用された。



新旧が混在する 宇宙世紀の推進器

宇宙世紀への改暦直前から、反動推進システムの需要が人軸に増加した。宇宙開発と宇宙移民の進展にともない、膨大な数の宇宙船艇や航空機、ひいてはその推進器が必要となったためである。この結果、旧来の化学燃料ロケットエンジンとは当然のこと、イオンエンジン、プラズマ・ロケットエンジン、そして熱核エンジンまでもが使用された。大気圏内ではターボファンやターボプロップエンジンやジェットエンジンが航空機を中心に使用されている。

そして、1950年代ごろから普及したのが、反動推進システムの決定版にあたる熱核ロケットエンジンである。これは、ミノフスキー・イオネンコア熱核融合炉（反応炉）の炉心内で加熱した推進剤を噴射して推進力を得る技術で、構造が小型なうえエネルギー変換効率に優れていた。この利点から宇宙船艇や航空機のほか、そしてMSやMAなど機動兵器に広く採用されるにいたった。ただし、従来の推進システムにも別の利点があるため、実際には使い分けや併用がなされることが多い。

熱核スラスタ

熱核スラスタには下記に示すような「あるが熱核融合炉の炉心内で推進剤を加熱後、機外に噴射することで推進力を得る」とは同じ。旧世紀にも同様のアイデアがあったが、コンパティブルエネルギー変換効率・推進力・安全性などあらゆる面で宇宙世紀のものに勝っている。



熱核推進器のタイプと環境適性

| | 宇宙 | 大気圏内 | 水中 |
|----------------|-----|------|------------|
| 熱核ロケットエンジン | | | |
| 熱核ジェットエンジン | × | | × |
| 熱核ハイブリッドエンジン | | | |
| 熱核ハイドロジェットエンジン | × | × | |
| | 高適性 | 通常適性 | 低適性 × 使用不可 |

熱核ロケットエンジン

熱核スラスタの基本形で、宇宙を中心に多用される。吸気の必要がないため構造がシンプルだが、推進剤を冷却剤としても使用可能な点、最速噴射速度が光速の9割、過去の核分裂炉タイプは4割にも達する点などがメリットとなっている。



熱核ジェットエンジン

機体外から取り込んだ大気を推進剤として利用できる熱核スラスタの一種で、その構造上、大気圏内・コロニー内専用である。理論上、推進剤切れを起こさないが、熱核ロケットと比べて出力重量比に劣るほか、冷却性能に問題を抱える場合もある。



熱核ハイブリッドエンジン

熱核ロケットエンジンと熱核ジェットエンジンの機能をあわせ持つタイプ。主に宇宙では熱核ロケット、大気圏内では熱核ジェットとして使用する。トムなどの陸戦用MSでも、冷却性の向上を狙って熱核ハイブリッドを搭載する例がある。



熱核ハイドロジェットエンジン

外部から取り込んだ水を、推進剤として利用するモデル。構造上、水中専用となるため熱核ジェットエンジンとのハイブリッドタイプとするが、艦艇では他の推進器を採用する。海中に無尽蔵に存在する水を利用するため、冷却性能にも優れる。



TECHNOLOGY INFO

異なる熱核スラスタの併用

熱核ハイブリッドエンジンを除く熱核推進システムは、特定領域での運用を想定したものが異なるタイプを採用するMSも開発された。これは宇宙・大気圏内（コロニー内）両用の汎用MS、または陸戦用MSに見られる傾向で、状況に応じて推進システムを使い分ける。特殊な例として、運用領域に合わせて推進器を機装したMSもあった。



MS-14A
ゲルクク
一年戦争末期のシオン公園軍主力MS。大気圏内外両用機だが、両翼にコロニー内用の熱核ジェットを搭載。

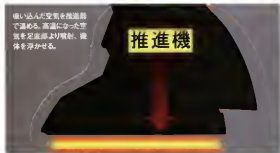
RX-160
バイアラン
ティターンズの飛行型試作MS。熱核ジェット搭載機として開発されたが、宇宙用は熱核ロケットに換装する。

ホバー走行システム

熱核ジェットエンジンなどで温めた空気を下面（MSなら足底部など）に溜めることで機体をわずかに浮揚させ、地上での高速走行を可能とするシステム。推力で強引に浮揚させる例も見られる。



ドムは、時速300kmで5時間の連続浮揚走行を可能としたという。



■オプション式

MS本体の機能によらず、ホバー走行を可能とするオプション。バリュートシステムの胸部装置が代表的なもので、ティターンズのTRシリーズでも例がある。

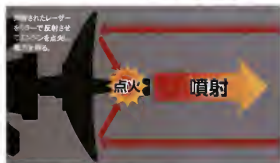


レーザー推進システム

レーザーを用いた推進システムは数種類が存在する。代表的なものが外部から照射されたレーザーをミラーで収束し、推進剤に点火するもので、宇宙船やコロニーの移動などに用いられる。

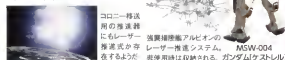


強襲爆撃機アルビオンが、月面からの離脱時に使用している。



■宇宙船艇以外では少ない採用例

宇宙船舶以外でレーザー推進システムを採用したヴィークルはきわめて少なく、ガンダム[ケストレル]の内蔵式レーザーロケット推進器とミニムバ・エクステリアが知られる程度である。



コロニー移送用の推進剤にもレーザー推進式が存在するようだ

強襲爆撃機アルビオンのレーザー推進システム。非使用時は収納される。ガンダム[ケストレル]

核バルス推進システム(核バルスエンジン)

核融合ペレットの運動爆発をリフレクターで受け、推進力に変換するシステム。突出して大推力であり、小惑星やスペースコロニーなどの移送に使用される。MSへの搭載も検討されたという。



プリティンシュ作戦ではコロニーの軌道変更に使われた。



■小惑星への設置

宇宙開発において、資源探掘用小惑星の移送に多用。180kmもの全長を有する小惑星エノラ（のちのルナプー）も、核バルス推進で地球圏に運ばれていた。



アクシズは全幅30km、核バルスエンジンの巨大さがわかる。



旧来型の推進システム

ミノフスキー・イオンスコ型熱核融合炉を用いた熱核スラスタの普及後も、旧来の推進システムは使用され続けている。熱核融合炉を未搭載のヴィークルは熱核スラスタを使用できないこと、短距離の航行・飛行のみを想定した機体では不要なこと、コスト面の都合などが理由である。さすがに軍用機でレプロエンジン搭載機は存在しないようだが、旧世紀の航空機を再現したホビー用のレプロノコ（ボーイング・コメット）などは採用例があるとされる。

■化学燃料ロケットエンジン

コア・ファイターなどの例外を除けば、宇宙戦闘機やランチ（内火艇）といった小型航空機、大気圏脱出用ブースターで化学燃料ロケットの搭載例が多い。連邦軍の貿易MS、RB-79 ホールの推進器もこのタイプである。



■ジェットエンジン

カウ級攻撃空母やガルダ級大型超輸送機といった大型機以外の大気圏内用軍用機では、ジェットエンジンの使用が続いた。プロペラ機やセザワ・アタックなどのエンジンも、構造上はジェットエンジンとなっている。



推進器と関連装備の搭載位置

宇宙艦艇や航空・航空機はどのようなMSにおける推進器の搭載位置はほぼ決定されている。バックパック、胸部や腰部が一般的な搭載箇所であり、いずれも重心や中心線に近い位置である。



バックパックに主推進器を搭載できない場合、胴や腰部に搭載

■MSの推進器と搭載位置

増加部位

肩胛バインダー、脅部バインダー、バーニア・ボイドなどの非四肢型可動部位への搭載例。高性能機に多い。



腰部

公国軍系MSのスカートなど、補助推進器の主な搭載位置。ゲルググのように主推進器を搭載する機体もある。

胸部

頭頂部を推進方向とした場合、中心線上の末端部。胸部の可動範囲を利用し、偏角推進器としても使用される。

バックパック

大形のMSで主推進器が搭載される。熱核融合と熱核スラスターの連結、推進剤の搭載にも適する。

非MS-MAの推進器搭載方式

MSほど複雑な形状を持たない宇宙艦艇や航空機は、推進器の搭載位置の自由度が少ない。基本的には中心線上の後部に複数を集中配置するが、外装に近い搭載形式も散見される。



後部中央に集中配置、または左右(上下)対称に搭載される。

■後端一体型

艦体の後部に推進器を集中配置する方式。中心線沿いの末端に配置するため推進時の安定性が高い。機関部を一元化できるメリットがある。



グワジン級

大型戦艦

■エンジンブロック外装型

推進器をパッケージングし、艦体外に接続する方式。エンジンブロックはパージ可能であるため、損傷時の連結清掃を防ぎやすいメリットがある。



アーカマ級やカイルム級など、ベカリス級の艦体下にある艦艇も似た構造を持っている。

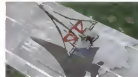


ベカリス級
強襲機動艦
ホワイ
ベース

ムサイ級
軽巡洋艦

■主翼一体型

主翼に推進器を内蔵する方式。ガルダ級などの大型航空機で見られる。胴体を容機庫様の設計にできるうえ、前後からの艦載機の出入りが容易だ。



大気圏内用の民間機(旅客機)でも見られる。エンジンを多量化したため生存性も高い。



ガフ級
攻撃母艦

ガルダ級
超大型
艦空母

■増加推進器

シュバルム・ブースターに代表される、オプション式の増加推進器。使用後、パージ可能な化学燃料ロケット式が多いようだ。同様の機能を兼ねるSFSが普及したため、採用例は少ない。



上陸型にバインドロケットをパージ可能な水陸両用機も存在する。



シュバルム・ブースター
(AGX-04 ガーベラ・テトラ)

ロケット・ブースター
(MS-06F 2 ガンダム2型)

バインドロケット推進器
(AMS-129M ギラズール)

■プロペラントタンク

この場合は、機体外に搭載する推進剤用増槽を指す。主推進器に推進剤を供給する都合上、バックパックへの搭載例が目立つ。MS本体内部の推進剤より、こちらが優先して消費される。



通常は使用後にパージされる。取用のダミにされることもある。



MS-14F
ゲルググM

MS-09H
ドナツ改

AMS-129 ギラズール用
増槽(バックパック)

TECHNOLOGY INFO

宇宙艦艇用ブースター

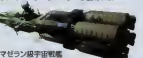
一部のMSが装備するブースターは、宇宙艦艇でも採用例がある。宇宙艦艇用は大気圏離脱用の使い捨て化学燃料ロケットで、一年戦争では連邦軍、公国軍を問わず使用されている。



民間では、龍飛航空会社の地球・宇宙往還旅客機「天龍」が2基のブースターを使用した。



ザンゾバ級
機動巡洋艦
ケルグレン
(ブースター装備)



マゼラン級宇宙戦艦
(ブースター装備)



サラミス級宇宙戦艦(ブースター装備)

資源衛星パラオ

サイド6に属する鉱物資源衛星パラオ。宇宙要塞ソロモンにちなんで名づけられたこの衛星は、資源採掘地としての使命を終えつつあった。しかし、ネオ・ジオン残党軍「袖付き」の拠点として運用された結果、「ラブラス事変」における激戦地のひとつとなった。

『袖付き』の拠点となった サイド6の資源衛星

スペースコロニーの建造など、宇宙での建設ラッシュなどに伴い、地球圏には多数の資源衛星が置かれることとなった。鉱物資源衛星はパラオもそのひとつである。U.C.0086時、探検できたのは低品質なチタン鉱石のみであったため、資源衛星としての価値はそれほど高くはなかった。しかし、それでも「袖付き」の関係者を中心に3万人程度が居住していた。

U.C.0040年代までは賑わっていたというパラオだが、資源の枯渇などによりコロニー公社は閉鎖を決定。これをベベ・メンゲナンが買い取ったことで、パラオの運命は大きく変化する。ジオンのシムバであったメンゲナンはパラオを「袖付き」に拠点として提供する。これは先行投資の一種とも言われている。こうして「袖付き」はパラオの軍事拠点化を進め、特殊な構造を利用した港湾部の建造やMSの配備を進めていった。この状況は地球連邦政府・軍も黙認していた。パラオは「寂れた資源衛星」として安定化していくこととなる。しかし、U.C.0096の「ラプラス事変」において戦場となったことで、パラオは人きな被害を受けたのだった。

パラオの立地と政治的な立場

コロニー公社が閉鎖を決定したパラオをジオンのシムバであるベベ・メンゲナンが買収し、さらにはサイド6の特別行政区に指定する。これ以降、ネオ・ジオン残党がパラオに流入するが、地球連邦政府・軍が黙認したこともあり、政治的には安定した状態を得ることとなった。

■パラオの立地

パラオはL1の軌道上、衛星領域の外側に位置している。中型の貿易衛星だったが、コロニー公社の人間以外はその存在も知らない辺鄙な小惑星であった。そうした無関心が「袖付き」の拠点化を許したと看做してもいいだろう。なお、L1に位置しながらも行政区分はサイド6（L5に位置）に属していた点も特殊であった。

■パラオの位置



政治的立場——地球連邦

地球連邦政府は「袖付き」によるパラオの軍事拠点化を事実上、黙認していた。これは、危険な軍事組織の存在によって利益を上げる軍産複合体の恩恵によるところが大きく、地球連邦政府と軍は「袖付き」との共存関係を構築していたのだった。



パラオの構造は軍も把握していた。この構造図はコロニー公社を通じて入手したものであった。



政治的立場——『袖付き』

ベベ・メンゲナンの支援を受けた「袖付き」は、彼が総督を務めるパラオを軍事拠点化。これは軍産複合体の一角を占めるメンゲナンにとっても利用価値があった。「袖付き」も地球連邦政府・軍の恩恵は熟知しており、密かに確信をうかがっていた。



「袖付き」は、地球連邦政府のネオ・ジオン残党が軍を不審なことを把握していた。

カロララの移動と港湾封鎖

パラオ攻撃にあたって、ネル・アーガマとエコーズは、カリクスとカロララ群の衝突を企図した。「ヒリヤード作戦」と名付けられた本作は、連絡シャフトの爆破に加

えて、カロララAにネル・アーガマのハイパー・メカ粒子砲を命中させ、強制的かつ連鎖的に各岩塊を衝突、移動させるというのだった。

1 連絡シャフトの爆破

エコーズがパラオに潜入。各岩塊を固定する連絡シャフトにコンゴジト爆薬 SHMX を設置し、ネル・アーガマの接近に合わせて爆破した。シャフトが破壊されたことで、各岩塊は非常に不安定な状態となった。



先行したエコーズにより、シャフトが爆破される。



2 各岩塊の衝突と港湾封鎖

シャフトの爆破後、ネル・アーガマがハイパー・メカ粒子砲を発射。カロララAに命中したことで、岩塊が移動し、連鎖的に衝突した。これにより、港湾部に被害が発生し、艦艇の出入りが制限されることとなった。



ハイパー・メカ粒子砲により、カロララAが各岩塊に衝突する。



3 パラオ、回転を開始

各岩塊が衝突したことにより、パラオ全体が上から見て時計回りに回転を開始。30分後、パラオのマスドライバーが地球に向いた。これを利用してネル・アーガマのリディ・マーセナスとミニバ・ザビは地球に向かった。



カリクスをはじめ、パラオ全体が時計回りに回転を開始する。



LOCATION INFO

地球圏各地の資源採取用小惑星

スペースコロニーの建設ラッシュに伴い、数々の資源小惑星が地球圏へと移送された。その中にはパラオ同様、探検地というだけではなく、軍事拠点としても利用されたものも多く、反地球連邦組織の拠点として運用されるケースも見られた。

ルナツー

小惑星ユノーを地球連邦軍が基地に改造。一世紀戦争開始時からシャアの反乱まで地球連邦軍の拠点であった。



アクシズ

アステロイド・ベルトに位置する小惑星。公国軍残党の最大勢力が拠出し、U.C.0087に地球圏に移送した。



キケロ

U.C.0080年代後期にも探検が行われていた小惑星。ネオ・ジオンがコア3とのドッキングを試みたが失敗した。



■パラオの構造

4つの岩塊——カリクスとカローラムからC——で構成されているパラオは、全長30km以上、最大直径15kmの鉱物資源衛星である。内部には連絡坑道が張り巡らされているほか、通心居住区画が設けられている。U.C.0096当時、資源衛星としての価値はほとんどなかったようだ。軍事拠点としての機能は、カリクスと各岩塊の間の入り江に設けられた港湾区などに集約されていた。

パラオの防衛は、補付きのMS部隊が担っていた。アイザックのように地球連邦軍から復帰した機体も存在した。

司令部

補付きの司令部。ホワイトカラー用の居住区に置かれていた。ジオン公園同様、大時代的な意匠が特徴的な施設だ。



ジオンのシンパだったベベ・メンザンが補付きのために設置した。



ジオニズム文化運動の影響が表れる。フルフロンタル大佐の執務室。旧ジオン公園とネオジオンの趣が確認できる。



マストライバー

採掘した資源や加工品を送り出すために用いられた大質量発射装置。カリクスから突き出すように建造されており、通常、レー向きが変わり、リディ少尉はルはサイド6を向いている。地球に向かった。



パラオ攻防戦時にレールは向きが変わり、リディ少尉はルはサイド6を向いている。地球に向かった。

坑道

カリクスの前後を貫く形で中央坑道が設けられ、さらにそこから無数の連絡坑道が各部に伸びている。パラオ内の交通網としても機能している。

与圧ドックにある連絡坑道。生きの人間でも漁獲の作業が可能であった。



カリクスを貫く中央坑道。平均直径は400m、長さ10km以上に及ぶ。港湾区からマストライバーまでを繋いでいる。



坑道内に設けられていた礼拝堂。パラオが小惑星帯に位置していた頃に作られたと推測される。

A: ホワイトカラー用居住区画

通心居住区画

ドラム状の居住区で直径は1.6km。通心力によって疑似重力を生じさせる。2基備えており、下図Aがホワイトカラー用、Bがブルーカラー用だ。



岩塊の先端には回転を利用した衝刺機(カッタードリル)が稼働していた。後に撤去されている。



■居住区
全景

外から見た通心居住区画。回転しながらカリクス内を回り込んだ後に停止したため居住区も集まった場所に位置する



労働者の住宅は狭く、住環境は良好とは言えなかった。居住区の裏には工場地区とホタ山が存在していたことから、居住が一体となった環境が形成されていたと言われる。

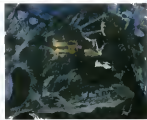
回転軸に人工工場が稼働している。時計回りに1分間で1回転し、1Gの疑似重力を生じさせる。

港湾部

岩塊の間に大小さまざまなクレバスには、宇宙艦艇が係留可能な港湾部が設けられていた。



岩塊の内部を簡略とすることで、外部からの確認は極めて困難であったとされる。



UC 0095時には、28基の艦艇が所属しており、機庫やドッキングアームを介して係留されていた。港湾部が非気密式である点も特徴。

第14スペースゲート
(バナージがバラオ
脱出時に使用)

B:ブルーカラー用
居住区画

鉱業プラント

バラオの外郭に設置されたプラントで、採掘した鉱物の精錬から加工までを行う施設。シャフトの爆破が行われた際に、同時に破壊されている。



内部構造と配置

下図はバラオを構成する各岩塊の位置と、内部の坑道を示したもの。特にカリクスは坑道が張り巡らされ、掘削する余地は少なかった。



カリクスを拠点とし、その後部にAからCまでのカラーラが接続されている。



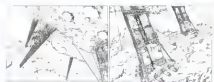
カリクスを貫く中央坑道を幹線道路とすることで、各区域を繋ぐ連絡坑道による交通網が構築された。

連結シャフト

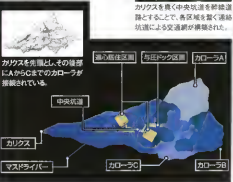
バラオを構成する各岩塊を接続するためのシャフト。シャフト1本につき、3本のパイプで構成される。最大全長は3kmで、計10本が用いられた。



極めて巨大な建造物で、艦艇が通過可能な隙間もあった。



鉄塔状のフレームで3本のパイプを束ねていた。シャフトの直径は30mで、気圧調節用の温水パイプなども設置されていた。



GUNPLA Generation

ガンブラ ジェネレーション

vol.28

MSN-06S シナンジュ

「赤い時星の再来」たるフル・フロンタルの乗機だけあり、ガンブラにおいても「シャア専用機」的な位置付けに属しているシナンジュ。賢況極まりないラインナップに対し誰もが満足するはずだ。

“Ver.Ka”からスタートした生まれしMS

「機動戦士ガンダムUC」の製品化は、同作品がアニメ化される以前の段階に小説版としてスタート。それゆえにユニオンガンダムと同様に、ライバル機たるシナンジュもいきなり1/100 マスターグレードモデル=MGの“Ver.Ka”版にてキット化されるという奇様なスタートを切った(2008年12月発売/7,700円・10%税込み)。言うまでもなくVer.Kaはカキハジメ氏が全面監修状態にてプロデュースを務めたデザイナーズMGで、まだその際はアニメが存在しなかったため、アニメの制約は一切図られることなく完全に振り切った仕様にてプロポーションや各部ディテール、可動パーツなどが設定されていた。

たとえば鋭角なバンパーや白いラインなどのマーキングも専用デカールで再現できるようになっているが、これらは‘80年代台初頭のガンブラームを象徴的にイメージしたものであり「ネオジオンが国として行き詰まってきたがゆえ、自分たちのルーツとして昔のものを持ち出してくる傾向がある」という気分に則りデザインした」ということらしい。

アニメ版機体のキットと比べるとやはり、デザイナー作品感とした孤高の空気感をまとうのが魅力か。



MG Ver.Ka シリーズ統一デザインのパッケージは、主眼とはいえ、やはり独特のオーラを放っている。

……これ以上、何を望めばよいのか？
すでにコンプリート状態といえる機体

左の図で記したように小説版の立体的化としてスタートしたシナンジュだが、機動戦士ガンダムUC¹がアニメ化されたのち、今度はアニメ版としてのガンブラ化が成されることとなった。

まず最初に製品化されたのは、定番アイテムたる1/144 ユニバーサルセンチュリー=HGUC(2010年10月発売/2,860円・10%税込み)。先行して製品化された1/100 MG Ver.Kaにおいてシナンジュの「立体的正



1/100 MG Ver.Kaが先鞭をつけたとはいえ、1/144 HGUCの完成度の高さはある意味異質的である。

解像」が完全に出切っていたため、美画な曲面で構成された複雑なフォルムを完璧に継承。機体各部のスラスター・展開ギミックや多彩な武器のホルディングなど、1/144というサイズに合わせたデチューンが施されており、よい意味で「廉価版MG」的な内容となっている。

次いでリリースされた1/100 MG(2013年3月発売/8,250円・10%税込み)は、MG Ver.Kaをベースにアニメ版準拠へと改変したキット。基本的な部分ではVer.Kaと大きな違



見た目的にも内容面にも1/100 MG Ver.Kaと大差はないものの、細部の見直しが行われている1/100 MG。



もはや改造する必要も塗装する必要もまったくない1/144 RG、80年代のガンブラとは完全な別モノ。



「……これがシナンジュの原型機(機体)と書くこと必至な、1/100 MGシナンジュ・スタイン Ver.Ka。

いは存在しないが、成型色はアニメ版寄りの明るい赤へと変更され、さらに、Ver.KaではABS樹脂製だったパーツが通常のプラスチックに変更されており、塗装が容易になるなどこまかな点がチューニングされている。

そしてある意味当然のように、「本物であること」「よりリアルな機体の追求」をコンセプトに振えた、1/144リアルグレードモデル=RGにおいても製品化されることに(2016年8月発売/4,180円・10%税込み)。こちらはアドヴァンスドMSジョイント(RG専用の内部フレーム)を軸に外部装甲を組み上げていくスタイルにて構成されており、さらに、赤のクロスインジェクションを用いた装甲、メッキ処理やパーツ分割でエングレービングが再現されているなど、ただ組み上げるだけで究極のシナンジュを堪能することができる。

最後に紹介しておくべきは、小説「戦後の戦争」時に登場するシナンジュの原型機シナンジュ・スタイン Ver.Kaだ(2013年2月発売/7,700円・10%税込み)。こちらはMGのシナンジュをベースにスタイルの違いを正確に再現、カラーリングが大幅に異なるせいもあり、シナンジュとは違った魅力に溢れている。

¹「ガンダム・モデルズ・バイブル」全巻プレゼントの応募等です。切り取って専用応募はがきに貼り付け、応募してください。詳しくは、告知欄の告知に付属冊をご覧ください。*株式会社「機動戦士ガンダム」の方は「応募」の切り取りは不要です。

NEXT MS

次号予告

お知らせ

随時の事情により、ガンダム・モビルスーツ・バイブルは、しばらくの間、隔週刊での発売にさせていただきます。
次号、第29号の発売は10月29日(火)です。

ジオング

宇宙移民の精神的指導者の名をいただくNT専用機。

脚部を持たない特異な形状をしているが、
一年戦争の最終局面ではガンダムと死闘を演じた。

お買い得な安心! 購読日をメールでお知らせします! (ご購読ください)

発売日お知らせメール

<https://deagostini.jp/oshirase/gms/>

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード

QRコード



第29号

10月29日(火)発売

定価: 本体639円+税

※地域によっては発売日が異なる場合があります。

※マガジンの内容が変更となる場合があります。

ア・バオア・クー戦に投入されたMSの機能を徹底検証!

ガンダムMSバイブル
専用マガジンケース
好評発売中!!

通常価格 1,230円 (税別)

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌の10号分を収納できます。

※税別でもご購入いただけます。

裏面に便利な
ステッカー
付き!

01 02
03 04
05 06
07 08
09 10



※第1号〜第22号も好評発売中。全国の書店でお買い求めください。

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説!

GUNDAM

MS Bible

Mobile
SUIT

ガンダム モビルスーツ バイブル

MSN-06S / シナンジュ



28

2019.10.29 11.5 合併号



シナンジュ
SINANJU

MSN-06S



Head Height : 22.6m
Weight : 25.2t
Total Weight : 56.9t
Material : Gundarium Alloy
Generator Output : 3,240kW
Total Thruster Output : 125,600kg

残光を残して「赤い彗星」のごとく宇宙を疾走する、「袖付き」の象徴



DeAGOSTINI

[illegible]